

「延世大学校スプリングスクール 参加報告書」

京都大学人間・環境学研究所 1年 湊本泰行

① 学習成果

・留学への意欲に関しての変化

語学堂での韓国語学習に特化した1年程度の留学は改めてしたいと感じた。自身は交換留学生という立場で以前1年間韓国の延世大学に留学したが、想定していたように語学が伸びなかった。語学堂のプログラムは韓国語学習だけを毎日4時間こなしていけるので、交換留学と比べると語学学習の効率は飛躍的に高いと感じる。以前より機会があればしたいと思っていたが、より強く思うようになった。

・大学での学習への意欲に関しての変化

朝から夜遅くまで必死に勉強している韓国の大学生の姿を徐々に目の当たりにした。課題も多く、資格が必要とされるといった韓国学生を取り巻く環境を感じるとともに、学部生時代自分がどれだけ勉強をしていたのか、時間を浪費していたのではないかという危機感、悔悟の念も生じた。韓国の学生の必死で「生きている」エネルギーは非常にいい刺激になった。

・国際理解への意欲に関しての変化

新たな出会いがたくさんあり、その人たちの行動、その人たちとのコミュニケーション全てが異文化、他者との接触であり、自身の中で韓国、韓国人、日本人、在日、韓国社会などに関する多様な知覚像を吸収できた。吸収したものを整理し、自身の中でゆっくりと醸成し考えや思いを巡らせることが国際理解にも繋がると考えているが、今回も多くの知覚像を獲得することができ、理解を進めるために必要な材料も増えたので、理解への意欲も増したと言えるだろう。

・次の海外留学についてどのような関心・計画を持つようになったか

すでに持っていた語学留学をしたいという想いがより明確になった。

・語学堂の授業を通して得られた成果

毎日4時間の授業を通して短期間ではあったものの、特に「新たな文法の習得」「会話能力の向上」の二点において非常に効率的に効果的に成果を得られたと思う。またモロッコやインドネシア、ロシア、中国など様々な国籍の学生とともに学習したが、こうした韓国語学習という目的でつながった人種のるつぼ体験も、様々な国の文化、風習への理解や興味を深化させてくれ、日本、また東アジアをみる観点にも新たな示唆を与えてくれた。

② 海外での経験

私にとって韓国はすでに外国ではなくなっている。友人はもちろん、韓国の空、住んでいたシンチョンの街ですらも私をおかえりと歓迎してくれているような気分になる。韓国にいと日本では影を潜めている自分の一側面が生き活きと表に出てきているのも感じる。ただし、そうであっても私自身20数年間いわゆる日本文化の元で育ってきており、異文化圏の全てが自然に入ってくるわけではなく、いつも「いつもと違う」という刺激の連続である。しかし私にとって韓国のそれはとても心地いいものである。この刺激は海外ならでは経験であろう。また、どうしても韓国の中にある日本に関心も向く。日本の報道がどうされているのか、歴史において日本がどういう立ち位置なのかそういったものを感じるのも自分が日本人であ

ると認識しているからであろうし、海外ならではの経験だと思う。

③プログラムの内容

・語学堂での毎日4時間(9時～13時)の授業

語学堂の正規課程に3週間だけの特別編入

最終週に試験がある。

自身は4級で受講。生徒は13人で、中国、香港、台湾、ロシア、インドネシア、モロッコから来ていた。また他にニュージーランドやイタリア、イギリスの学生との交流もあった。

韓国語学習には非常にいい機関。

・延世大学 UIC の学生との討論

お互いの質問に応答する形でプレゼンテーションを行った。

政治、社会、文化のについてそれぞれ3つ程度のトピック。

相手方は英語、こちらは韓国語。

1人の学生とは討論のあとで仲良くなり、今後も関係が続きそうである。

韓国語でプレゼンテーションをすることの難しさを感じた。

具体的な討論の時間が取れなかったのは残念であったが、様々なバックグラウンドの教員や学生とコンタクトが取れたのは非常に有意義であった。

・言語交換

延世大学の学生と週に2回会って、日本語と韓国語を教えあった。

日本語に逃げることもできず、非常に会話能力向上に役立った時間であった。

Podcastを事前に聴いていて、その内容について討論をしたりした。

一緒に映画を観に行ったりと1人の友人にもなり、今後も頻繁に連絡をとることになりそう。

・学外プログラム

水原に行き、水原華城の見学と、金箔貼りの体験をした。

個人的には何度も訪れている場所ではあったが、バスでの送迎もしっかりしていて快適な時間を過ごせた。

・個人的な活動

留学中に知り合った縁で、日本就職を目指す韓国学生を支援するスタディグループに講師としたり、現地の日本語教師の方、駐在員に会いにいたり様々な方面で活動をした。

④進路への影響について

ここから数年の自分の進路は決めているため、大きな変化はない。ただし、なにかしら将来的に韓国に関わりたいたいという思いが強いことは今回の滞在でも再認識した。

한국 거리는 살아 있었다. 한국 학생도 살아 있었다.

에너지로 가득 찬 “한국”에서 큰 자극을 받았다.

한국은 내게 이미 외국이 아니다.

앞으로도 한국과 함께 살아 간다.

한국에서 만난 모든 사람, 프로그램의 운영을 해 주신 모든 분들에게 감사드립니다